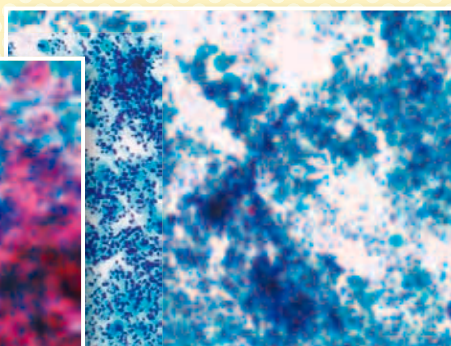
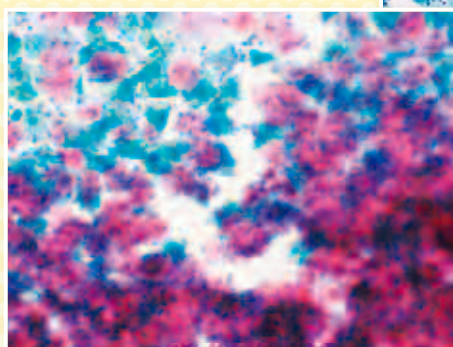
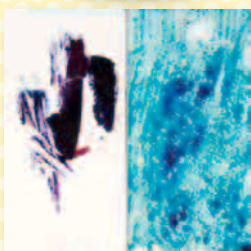
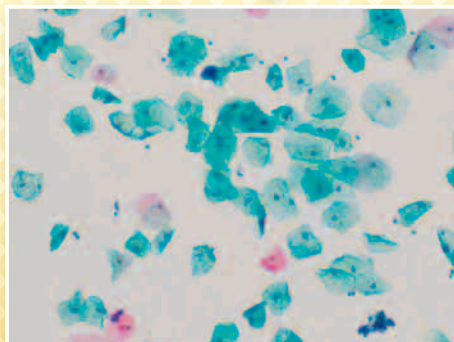


婦人科液状化検体細胞診 (LBC法:Liquid Based Cytology) を今年3月より受託開始しています!

従来法



LBC法



世界的に普及しているLBC法であるThinPrep法®を採用し、より精度の高い検査データを提供いたします。

全自動化された標本作製システムにより、細胞診断に適した標本作製が可能となりました。

Contents

婦人科液状化検体細胞診 (LBC法:Liquid Based Cytology) の案内 / ② ちょっとひと言! / ②
5S活動報告 / ③ お知らせ / ④ 中綴じ (~病態へのアプローチ~VOL.101)

福岡市医師会臨床検査センター

〒814-0001 福岡市早良区百道浜一丁目6番9号 TEL 092-852-1506 FAX 092-852-1510

<http://www.city.fukuoka.med.or.jp/kensa/kensa.html> E-mail : fma@city.fukuoka.med.or.jp

婦人科液状化検体細胞診(LBC法)のご案内

採取した細胞をスライドガラスに直接塗抹する従来法に比べると、細胞を専用バイアルに回収し全自動装置で標本作製するLBC法(ThinPrep法®)では細胞のほとんどが回収されるため、不適正標本の減少や、全自動化されたシステムによる標本作製の標準化、精度・感度が向上する、等の利点があります。

従来法では、細胞採取～スライドガラスへの塗抹～スプレー固定までを各施設にて行っていただきますが、LBC法では標本作製は医師会で行うため、採取後は細胞回収(ブラシをすすぐ)のみとなり、作業工程の簡素化とスライドガラスの取扱い・運搬のリスク減少が期待できます。

また、細胞診にてASC-USと判定された場合、従来法ではHPV検査追加のために患者さまに再度来院していただき検体採取を行う必要があります。しかし、LBC法であればバイアルの残検体を用いたHPVの追加検査が可能となり、患者さまの負担軽減にもつながります。(バイアルの保存期間:1ヶ月程度)



	検査材料	採取器具・容器	作業工程	HPV 検査
従来法	子宮頸部・膣部 および子宮内膜	・ブラシ・綿棒等 ・スライドガラス ・固定液(スプレー)	・細胞採取 ・スライドへ塗抹 ・固定～乾燥	検体採取 → 追加
LBC法	子宮頸部・膣部のみ (内膜は受託不可)	・サーベックスブラシ ・ThinPrep専用 バイアル	・細胞採取 ・細胞回収(すすぎ)	追加可 (残検体にて)

検査項目	保存	所要日数	実施料[判断料]	検査方法
細胞診 (婦人科LBC)	室温	3～8	150+加算36 [病理]	パパニコロウ染色

※福岡市子宮頸がん検診もLBCでの出検を承ります。

ちよつと
ひと言!



まだまだ残暑が厳しい日々が続いていますが暦の上では9月は秋らしいです。

夏の疲れきった体を

「食欲の秋」・・・美味しい食べ物を食べ体力を回復し、

「スポーツの秋」・・・適度の運動で体のキレを取り戻し、

「読書の秋」・・・頭をリフレッシュ。

心と体をスッキリしてこの厳しい?激しい残暑を乗り越えましょう。

しかし何事もほどほどに。思っている以上に自分の体は若くないかも・・・

(特殊検査 藤本)

血液一般係

血液一般係では、血球検査・輸血検査・凝固線溶検査・尿検査・一般検査等、多岐に渡る検査を担当しています。自動分析器だけではなく、用手法による検査項目が多いため、試薬・消耗品・備品共に多くの種類が必要になります。そのため、実験台の机上や引出の中の整理が滞り、何がどこにあるのか検査課員全員が把握出来ていない状態でした。昨年より、不要なものは捨てる「整理」と必要なものの置き場所・置き方を決め、ラベリング表示をする「整頓」を続けており、業務の効率向上、ミス・事故防止、スペースの有効活用に努めています。

Before



棚を雑然と物置のように使用していたため用途が定まらず上手く活用できていませんでした。

After



室温で保存できる試薬管理棚として活用し、項目毎・LOT毎に識別ラベルを貼付したことにより在庫管理が明確になりました。



事務机上の整理が行われておらず、何がどこにあるかよくわかりませんでした。



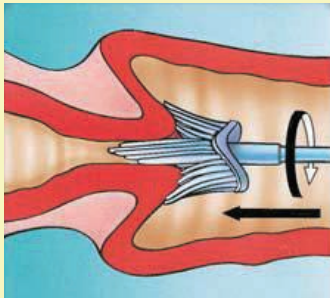
ファイルBOXを活用し、作業日誌・リスト類を収納したことによって定置管理が出来るようになり、作業スペースの確保にもつながりました。

検体採取・提出時のお願い



婦人科液状化検体細胞診 (LBC法:Liquid Based Cytology)

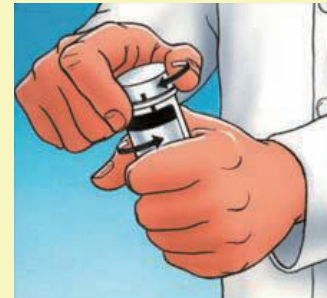
*細胞採取



サーベックスブラシなどの採取器具を用いて細胞を採取して下さい。頸管内にブラシの中央部を挿入し、そっと押しつけて右に5回転させたら、すぐにバイアルに入れます。



採取器具を専用バイアルに入れ、容器の底で毛先が広がるように10回程度押しつけた後、強くかき回して洗い落とし、細胞を回収します。



採取器具を取り出したら、蓋の黒いラインがバイアルの黒いラインを越えるようにしっかりと蓋を閉め、すぐにバイアルを振盪してよく混和させて下さい。

より良い細胞採取のため、出血や粘液の多い場合はガーゼや綿棒で軽く取り除いてください。

適正

適切な量の細胞が均一に塗布



不適正

細胞量が不足、不均一

血液や粘液の多い検体の標本を作製すると...



*ラベル貼付

バイアル裏側のラベルの貼っていない部分で検体の性状や液量を確認しています。この部分は空けた状態のままで、患者さまラベルはバイアルラベルの上に貼付けるようお願いいたします。

